

会 議 録

会議の名称	平成26年度第1回戸田市児童福祉審議会
開催日時	平成26年4月25日(金) 午後2時00分～3時45分
開催場所	大会議室A
会長等氏名	会長 中村 信成
出席者氏名 (委員)	米倉 裕子 芝崎 春樹 湯地 浩一郎 中野 康子 西川 達男 高木 直子 青柳 正彦 土肥 美奈子 根本 浩伸
欠席者氏名 (委員)	永塚 博之 飯田 登志子
説明のため 出席した者	アシスト(株) 安保
事務局	三木部長 駒崎次長 黒澤副参事 矢ヶ崎課長 佐々木主幹 櫻井主幹 重松主任
議 題	1 子ども・子育て支援新制度の概要について 2 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果について 3 教育・保育の「量の見込み」について 4 戸田市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)について 5 今後のスケジュールについて 6 その他
会議結果	ニーズ調査結果や事業計画の骨子を説明し、各委員からの様々な意見をふまえ、今後の計画策定に向けた方向性を確認した。
会議経過	別添のとおり
会議資料	1 平成26年度第1回戸田市児童福祉審議会会議次第 2 「子ども・子育て支援新制度」の概要(資料1) 3 戸田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告(資料2-1)、戸田市教育・保育の量の見込み(資料2-2)、インタビュー調査について(資料2-3) 4 教育・保育の「量の見込み」について(資料3) 5 戸田市子ども・子育て支援事業計画骨子案のイメージ(資料4) 6 スケジュール(資料5) 戸田市子育て応援ブック 7 戸田市子育て応援ブック 8 なるほどBOOK
議事録確定	平成26年 4月25日 会長

発言者	発言・議題内容・決定事項
<p>こども青少年 部長及び会長</p>	<p>【 開会 】</p> <p>【 開会あいさつ 】</p> <p>委員の皆様には、お忙しい中をご出席いただき、また、子育て支援行政にご尽力を賜りお礼申し上げます。</p> <p>全国的に人口減少や少子高齢化が言われるなか、本市では、昨年10月に人口13万人を超え、人口の増加が続く見込みです。</p> <p>本市も、いずれは、高齢化が進む予測ではありますが、現在、県内一平均年齢が若く、子育て世代が多いまちであり、子育て支援が最重要施策として位置づけられているところです。</p> <p>子ども・子育て支援事業計画では、市民のニーズに基づき、幼稚園、保育所などの教育・保育施設や、学童保育、子育て広場などの地域子ども・子育て支援事業について、量の見込みや確保方策、提供体制を定めるとともに、あわせて、子ども・子育て支援施策全般について、定めることとなります。</p> <p>待機児童の解消に注目が集まりますが、地域子育て支援など、子どもの育ちと子育て支援全般に引き続き力を入れていくこと、また、子どもの最善の利益、子どもの福祉を第一に、を念頭において計画を策定していくことが大事ではないかと考えています。</p> <p>3月に戸田市政策研究所のシンポジウムがあり、その中で、本市は、急激な高齢化を迎えること、また、転入して戸田に住み始め、生まれも育ちも戸田市の子どもが増えることから、戸田っ子が、いかに地域への愛着を持ち、地域に根付いた生活をしていかれる街になるかが、今後のポイントとの発表があり、考えさせられたところです。</p> <p>委員の皆様方は、日々、専門分野で、子どもの育ちや親支援に関わっておられます。それぞれのご立場、ご経験などを踏まえていただき、ご意見を賜ればと考えています。</p> <p>なお、今年度は、本日も含めて5回ほど、本審議会開催を予定しており、計画策定にあたりお力をいただきますよう、お願い申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>【 委員自己紹介 】</p> <p>(傍聴人の入場)</p> <p>【 議事 】</p> <p>1 子ども・子育て支援新制度の概要について (資料1及びなるほどBOOKすくすくジャパンをもとに説明)</p>

2 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果について (資料2をもとに主に以下の説明)

- ・就学前児童2,500件、回収1,090件、回収率43.6%
- ・小学校児童1,500件、回収659件、回収率43.9%
- ・主な親族等の協力者の状況では、「緊急時に親族等に子を見てもらえる」が59.0%であるが、一方で「いずれもない」が18.3%おり、いわゆる都心型といえる。
- ・保護者の就労状況では、母親の就労状況は、就学前児童では、4割弱、小学校児童では約6割が就労をしており、就労していない母親の就労希望が高く、形態はパートタイム、アルバイトの希望が多いという傾向である。
父親の就労状況では、就労時間「8～9時間」「10～11時間」「12時間以上」が各30%前後と多い状況である。
- ・平日の定期的な教育・保育の利用では、6割が利用しており、その内訳は幼稚園が5割、認可保育所が4割となっている。
- ・休日の教育・保育利用意向では、土曜日の利用希望「月に1～2回及びほぼ毎週利用したい」28.1%、日曜・祝日の利用希望が17.7%という結果。
- ・平日の放課後の過ごし方では、「習い事」、「自宅」、「学童保育室」の順に希望している。戸田市の場合、「自宅」よりも「習い事」のほうが多いのは特徴。また、学童保育室の土曜・休日の利用希望では、「低学年の間は利用したい」、「高学年になっても利用したい」が2割から4割の希望がある。

3 教育・保育の「量の見込み」について

(資料3及び2-2をもとに主に以下の説明)

- ・「量の見込み」の算出はニーズ調査の結果を、国で示された手順に基づいて算出されたもので、戸田市は、「教育・保育提供区域」の設定を1区域、「就労時間の下限」を64時間として算出。
- ・「量の見込み」については、現在の両親の就労状況に、今後の就労希望を勘案して家族類型を補正した「潜在型家族類型」を加え、それに推計児童数や利用意向率を乗じるなどして算出。
- ・算出方法から、全般的にかなり高い見込み量が算出される。
- ・国の手順で算出したものを資料2-2で提示、実態とは乖離しているものもみられる。
- ・算出された「量の見込み」を暫定値として、今後、現状や過去の実績等から検討し、「量の見込み」を補正していくことが必要である。

4 戸田市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）について

(資料4をもとに主に以下の説明)

- ・第2部各論の第1章から第4章までが国が示す必須記載事項、第5章から第7章までが国が示す任意記載事項。

	<p>・次世代育成支援行動計画との調整が必要である。</p> <p>以上、議題 1～4 説明終了</p>
委員	<p>【 質疑応答 】</p> <p>議事 2 について、資料 2-2 の中で、地域子育て支援拠点事業の利用者数が 107,410 人、割合が 2,388%という数字が出ているが、これは国の算出方法でこういう数字がでるのでしょうか。</p>
事務局	<p>この④地域子育て支援拠点事業の平成 25 年度の実績は 107,410 人回で、人回というのは、何人の方が何回利用したいのか、何人の方が何回利用したかというものを含めた年間の延べ利用回数である。同じ方が何回利用してもという考え方の見込みとなります。</p>
委員	<p>推計延べ人数ということか。</p>
事務局	<p>推計延べ人数である。</p>
委員	<p>資料 2-2 の戸田市教育・保育の量の見込みで、(認定こども園及び保育所+地域型保育)とあるが、戸田市の場合は、家庭保育室、認可外保育所は含まれているのか。</p>
事務局	<p>新制度に対応して、保育所+地域型保育に家庭保育室、認可外保育所を含めており、平成 25 年度実績についても認可保育園及び認可外保育所の利用者数を計上している。</p>
委員	<p>資料 4 骨子案の第 6 章に、障害児など特別な支援が必要な子どもの施策の充実とある。具体的にはどのようなものか。</p>
事務局	<p>発達障害など該当するかと思う。</p>
委員	<p>学校では発達障害の問題は、大変大きな問題なので是非そのところを施策として、専門的な支援という形で対応を検討していただきたい。発達障害の子への対応は重要であり、一律に量的な問題もあるとは思いますが、是非、質的なものも含めてこれからは考えていく必要があるのではないかと。学校に入ってから対応が違っては困るので、充実した施策を考えていただきたい。</p> <p>また、長い計画期間のなかで、昨今はいろいろ問題があるため、合理的な配慮も必要であると考えてるのでよろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>他に意見はないか。各委員より意見を頂戴する。</p>

委員	<p>アンケート結果に基づく分析や計算の仕方などから、いろいろな背景や課題があると思いました。</p>
委員	<p>私は保護者の立場からこのアンケートの内容を見ていて、これだけでは多分計り知れない、例えば仕事に関しても、子どもを預けてでも働きたい母親なのか、子どもを預けないでいたいが生動的に働かざるを得ないとか、もっと突き詰めていくと、深いいろいろな状況があるのかなというのを思った。その中で、おそらく今の母親は働かざるを得ない状況にあり、どこにどうやって預けようというのは、小学校まで続いて子どもを預けられないから働く時間が限られてしまうとか、いろいろな問題を抱えている話はよく耳にする。そういうところも含めて、いろいろな問題をもう少し調査をしてみると、アンケートだけでは計り知れないものがあるのではないかというのはすごく感じた。</p> <p>実際に学童保育も今年度から4年生までとなったが、私の学校でも4年生のお子さんが何十人と入れなくて困っているという話も聞く。そういうところも含めて、親もゆとりを持って子育てができるような、仕事をしながらでも子どもを安心してどこかに預けられるような、そういう体制がもう少ししっかりできればと感じた。本日の内容を聞いていても、なんとなくうまく言えないが、ピンとくるような、こないようなところがあったというのが、保護者としての意見です。</p>
委員	<p>社会福祉協議会の立場として、地域でどのぐらい子育ての支援ができるのか、また、集合住宅が多い地域と戸建が多い地域とどのような差があるのかなど、地域の特性みたいなものをもう少しとらえていく必要があるかと思った。</p>
委員	<p>アンケートの内容はよく分かった。実際に、預けるところがないとの意見もあったが、私のまわりでは現実的に扶養の範囲内とかも考えて働いている方たちが結構いるので、また、それらも考慮する必要があるのかなという気はした。</p> <p>私は戸子連のほかに放課後子ども教室でコーディネーターをしている。そこに登録している子たちは、放課後の居場所として本当に必要というか、ほとんどの子は元気で楽しく遊んでいるという感じだが、孤立してしまう子というのがたまに見受けられる。参加している子は大丈夫だが、保護者が放課後子ども教室には参加しない、する必要がないと判断をしているのか、お迎えが条件なのでその辺で躊躇されているのか、わからないが、陰に隠れてポツンと孤立するような子がいない、そんな戸田市の子育てを望んでいます。</p>
委員	<p>私は、認可外保育施設の立場として、いろいろな委員の方々からの立</p>

場からのご意見もあったので、家庭保育室、認可外保育室、その立場から言わせていただきます。無認可とか認可外という保育のイメージだけで今でも非常に敬遠されているご家庭の方が多いのではないかと思います。認可だから安全安心というわけでも当然ないところもあると思うし、認可外だけがすべて何から何まで基準に満たしていないという施設ではないと思って私は13年間もやってきた。ここにきて量が不足しているから認可外を認可にすればいいという問題では当然ないと思う。認可外であっても、質を高めていく必要が当然あると私どもは思っていて、子ども1人当たりに対する費用負担も非常に少なく運営しているのも現実である。そういう状況で、もう日々ギリギリのところまでやってきているので、なんとか量だけではなく質も改善できるような保育というのを是非とも皆さんにもご検討いただきたいと思います。

委員

私は0歳などの小さい子を持つお母さまたちや学童もかかわったりしている。本当にお母さんたちが0歳、産休明けで保育園に入れなくて困っていて、いろいろなところを探し歩いているという話も聞いている。今回のこのニーズ調査結果からなるほどと思った。

学童について、土、日の保育も希望する方がとても多いというアンケート結果を見てすごいなと思ったが、学童の子どもは、家で遊びたいとか、家にいたいと思っているように私には見えるので、親御さんが望む居場所と子ども自身がいたい場所との差がすごくあるのだろうと感じた。学童は、6年生まで拡大という話も出てきているが、学童の子たちに実際に聞くと、学童をやめたいという子が結構いる。親御さんは学童に入れたいということだが、子どもたちを見ていると、ちょっと違うのではないかと、その差があるというのは、現場を見ていて思った。

また、小さな子がいるお母さんから言われたのは、国からの子育て支援を見ていると、働かなければいけないのかと。今自分は働かなくてもすむけど、育休から復帰の話が多く、働かない自分が悪いような気がしてきて働きたいと言う。国もそれをすすめているようなニュースになっているので、家にいて子どもを見ているのがいけないような気がすると言うのでそれはちょっと違うのではないかと話している。こういうのは、本当に表裏があり、こちらを立てればあちらもということになるので、両方の面から検討していただければと思った。

委員

児童相談所の立場から、第6章で児童虐待防止対策の充実があるが、やはり予防の部分は、地域との連携、福祉だけでなく保健サイドとのかかわりも必要になってくるので、ご検討いただければと思う。

保育所利用については、虐待の恐れがあるとか家庭引き取りにあたり、お子さんの保育所入所をお願いしている。今回の保育を必要とする事由に「虐待、DVの恐れがあること」がある。虐待件数が増えている

	<p>中で、虐待予防、防止の観点から保育所利用が必要なお子さんは増えてくると思うので、ご検討いただきたい。</p> <p>また、今回の事業計画と現在の行動計画の比較で、行動計画では一般企業が対象として入っていたが、今度の事業計画では一般企業は入っていない。ニーズ調査報告の病児保育の理由のところ、休みを取ることが法で認められていても現実には休めないというような意見があった。そういう意味では、骨子案の第7章で、働く環境とか子育ての環境として、職場の部分も抜けてはいけないと思う。今回の事業計画には、特に対象とされてはいないが、今後、そういった部分も盛り込んでいただくといいかなという感想を持った。</p>
<p>会長</p>	<p>各委員さんから貴重なご意見ありがとうございます。また何かあったら事務局のほうへ何なりと意見を寄せてください。</p>
	<p>それでは、議題（5）に移る。今後のスケジュールについて、事務局からお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>スケジュールに入る前に補足をする。</p>
	<p>今回、ニーズ調査結果を集計し、その数字を国の算出方法にあてはめるとこのような結果になるという提示をさせていただいた。ご意見いただいたように、いろいろな背景があり、このニーズ量が適当かどうかも含め、現状とか過去とか見込みとか、含めながら検討していく。</p>
	<p>計画については、骨子案の部分でたくさんご意見いただいたが、今回の子ども・子育て支援事業計画では、国で示す必須記載事項として教育・保育の量の見込みと提供がある。次世代育成支援行動計画との比較ということで、当初、次世代は時限立法で、今年度末で終了予定が、延長となった。次世代育成支援行動計画は、今回の子ども子育て支援事業計画よりも幅が広いものであるため、重要な施策は当然引き継いでいく。ただ、計画を二本立てで残しておくのは効率的ではないため、イメージ的には今回の子ども・子育て支援事業計画で、教育・保育の量の確保と提供等の必須記載事項に加えて、次世代から重複するものはそのまま引き継ぎ、それ以外は市の任意記載事項ということで、今日いただいた意見もたくさん含まれますが、施策として引き継いでいく形で考えている。</p>
	<p>今回決めなくてはいけないことということで、一つは教育・保育提供区域の設定があり、戸田市の面積から教育・保育の提供にあたっては、その地域で偏りが無い、かえって区切ってしまうと偏りが出してしまうという状況から戸田市の区域の設定は1区域ということで計画を進めていきたい。また、保育の必要性の認定における就労時間の下限については、現状、戸田市は待機児童があることなどから、64時間で進めたいと考えているのでご了承いただきたい。</p>

今後のスケジュールについては、資料5のとおり、会議は5回開催を予定している。今後の策定のスケジュールで一番大きなところでは9月に確保方策について県に中間報告をする。先ほどのニーズ量を確定して、確保方策を第2回、第3回と提示させていただき、そこである程度の確保方策について中間報告したいと考えているのでよろしくお願い致します。

(6) その他

本日いただいたご意見等も含め、策定を進め、次回7月17日に計画の素案を提示したい。そこで素案についてご審議いただいた後に、7月下旬から8月上旬ぐらいに市民から素案の内容について意見を聴取するインタビューの開催を予定している。その結果については、審議会に報告させていただく。また、会議とは別に随時、資料の提供等をさせていただく場合があるので、その際はご協力の程よろしくお願い致します。

会長

最後に何か委員からあればお受けするが、特によろしいか。ないようなので、以上をもって本日のすべての議題を終了とする。

事務局

【 閉会 】

ありがとうございました。

次回の審議会は、7月17日(木) 14時から同じ場所(大会議室A)での開催となります。詳細についてはご連絡差し上げます。

以上をもって、平成26年度第1回戸田市児童福祉審議会を終了いたします。